

## みずほマーケット・トピック(2022 年 10 月 7 日)

## 内容 1. 為替相場の動向

## 2. 来週の注目材料

## 3. 本日のトピック: 国連の正論をどう受け止めるか～とはいえ利上げ停止は不可能～

## 1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・ 今週のドル/円は週半ばに急落も持ち直し、底堅く推移した。週初3日、144.80円でオープンしたドル/円は一時週高値の145.40円まで急伸も、日銀による介入の警戒感から直ぐに反落。海外時間では米9月ISM製造業景気指数の冴えない結果や米長期金利低下を受けてドル売り優勢となり144円台前半まで下落。その後は米長期金利が下げ止まり、144円台半ばまで反発した。4日、ドル/円は円買い介入警戒感が漂う中で、145円を手前に伸びを欠く展開が継続も、海外時間では米8月JOLT求人件数の市場予想を下回る結果や米金利低下に143円台後半まで急落した。5日、ドル/円は前日海外時間のドル売りの流れを引き継ぎ、一時週安値の143.53円まで値を下げた後、米長期金利の反転上昇を受けドル買いが再開。海外時間では米9月製造業PMIや米9月ISM非製造業景気指数の良好な結果に144円台後半まで続伸。6日、ドル/円は144円台前半まで下落した後は、米長期金利上昇とFRB関係者の利上げに対するタカ派的な発言を受け、145円台前半までじり高に推移した。本日のドル/円も145円ちょうど付近での取引となっている。
- ・ 今週のユーロ/ドル相場は週半ばに急上昇した。週初3日、0.9795付近でオープンしたユーロ/ドルは欧州経済の先行き不透明感が警戒される中、一時週安値の0.9754まで下落も、その後は米長期金利低下に伴うドル売りに支援されて0.98台半ばまで上昇、終日を通して0.98ちょうどを挟んだ揉み合い推移となった。4日、ユーロ/ドルは欧州株の堅調推移を受けて上昇したユーロ/円に連れ高となりじりじりと上昇。その後も米金利低下や米経済指標の冴えない結果にドル売りが加速し、一時週高値の0.9999まで続伸した。5日、ユーロ/ドルは前日の高値付近まで上値を伸ばすも、ユーロ圏9月総合PMIの市場予想を下回る結果に加え、複数の米経済指標の良好な結果にドル買いが加速し、0.98台前半まで急落。売り一巡後は0.98台半ばまで反発したが追加材料に欠いた。6日、ユーロ/ドルは一時0.99台前半まで上値を伸ばすも、その後は米金利上昇やECB議事要旨での経済成長鈍化を代償にしてもインフレ抑制を志向するといった内容に、ドル買い優勢となり0.97台後半まで値を下げた。本日のユーロ/ドルも前日の安値付近での取引となっている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

|              |          | 前週末       | 今 週       |           |           |           |
|--------------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|              |          | 9/30(Fri) | 10/3(Mon) | 10/4(Tue) | 10/5(Wed) | 10/6(Thu) |
| ドル/円         | 東京9:00   | 144.41    | 144.80    | 144.52    | 143.85    | 144.43    |
|              | High     | 144.81    | 145.40    | 144.94    | 144.85    | 145.14    |
|              | Low      | 144.20    | 144.16    | 143.90    | 143.53    | 144.39    |
|              | NY 17:00 | 144.75    | 144.58    | 144.16    | 144.69    | 145.14    |
| ユーロ/ドル       | 東京9:00   | 0.9830    | 0.9794    | 0.9835    | 0.9984    | 0.9912    |
|              | High     | 0.9854    | 0.9844    | 0.9999    | 0.9995    | 0.9927    |
|              | Low      | 0.9734    | 0.9754    | 0.9807    | 0.9835    | 0.9789    |
|              | NY 17:00 | 0.9800    | 0.9823    | 0.9988    | 0.9886    | 0.9793    |
| ユーロ/円        | 東京9:00   | 141.89    | 141.58    | 142.07    | 143.54    | 143.15    |
|              | High     | 142.31    | 142.44    | 144.07    | 144.02    | 143.45    |
|              | Low      | 139.75    | 141.41    | 142.07    | 142.46    | 141.98    |
|              | NY 17:00 | 141.98    | 142.11    | 143.88    | 142.90    | 142.14    |
| 日経平均株価       |          | 25,937.21 | 26,215.79 | 26,992.21 | 27,120.53 | 27,311.30 |
| TOPIX        |          | 1,835.94  | 1,847.58  | 1,906.89  | 1,912.92  | 1,922.47  |
| NYダウ工業株30種平均 |          | 28,725.51 | 29,490.89 | 30,316.32 | 30,273.87 | 29,926.94 |
| NASDAQ       |          | 10,575.62 | 10,815.43 | 10,815.43 | 10,815.43 | 11,073.31 |
| 日本10年債       |          | 0.24%     | 0.24%     | 0.23%     | 0.24%     | 0.25%     |
| 米国10年債       |          | 3.83%     | 3.64%     | 3.63%     | 3.75%     | 3.83%     |
| 原油価格(WTI)    |          | 79.49     | 83.63     | 86.52     | 87.76     | 88.45     |
| 金(NY)        |          | 1,672.00  | 1,702.00  | 1,730.50  | 1,720.80  | 1,720.80  |

## ドル/円相場の動向



## ユーロ/ドル相場の動向



## 2. 来週の注目材料

- 米国では、本日 7 日(金)に 9 月雇用統計が発表される。前回 8 月の非農業部門雇用者数は+31.5 万人(前月比、以下同様)と 7 月から伸びはやや鈍化した。市場予想(+30.0 万人)を上回る結果となった。民間部門雇用者数は+30.8 万人、政府部門雇用者数は+0.7 万人の結果となった。民間部門雇用者数に関する内訳は、民間サービス部門が+26.3 万人で、医療部門や専門サービス部門、小売部門など幅広い業種で増勢が確認された。財部門は+4.5 万人と堅調さを維持した。一方で、失業率は 3.7%と 7 月から若干の上昇。労働参加率(労働力人口÷生産年齢人口)については、就業者の増加を背景に 62.4%と小幅に増加した。労働供給の逼迫は改善に向かったものの、平均時給は+0.3%、前年比では+5.2%と賃金水準は増加基調を維持、主にサービス部門で上昇が確認された。なお 9 月の結果について、ブルームバーグの事前予想では、非農業部門雇用者増加数を+27.5 万人と見込んでいる。失業率については、3.7%で労働参加率について 62.4%の予想となっている。

米国では、13 日(木)に 9 月消費者物価指数(CPI)の公表を予定している。前回 8 月の結果は前年同月比+8.3%と 7 月(同+8.5%)から若干減速した。一方で、食料品とエネルギー価格を除いたコアベースでは同+6.3%と 7 月の同+5.9%から加速した。労働需要の高まりに伴う平均賃金水準の上昇や大きな CPI の構成要素である住居費が高止まりしている点が影響した。また、燃料需要が高まると見込まれる冬場にかけて、資源価格の下落が継続する保証もない。総合のインフレ率は 6 月の+9.1%以降はじりじりと下落しているが、こちらの動向も引き続き見逃せない。なお、9 月消費者物価指数の結果についてブルームバーグの事前予想では、同+8.1%となっている。

このほか、中銀関連では 12 日(水)に FOMC 議事要旨が公表予定。上述したインフレを抑制すべく、FOMC メンバーによる政策金利見通し(中央値、ドットチャート)は 22 年に関し+100bp、23 年は+87.5bp、24 年に関しては+50bp 引き上げられた。利上げの最高到達点が変わったことに関しては「1 回の利上げ幅が拡大した」または「利上げ期間が長期化した」、もしくはその両方と読むことができ、この政策決定に至った議論の過程は確認しておきたい。利上げ終了後は 23 年後半まで現状維持で様子見の上、24 年以降は利下げのタイミングを模索するという局面に入ることが予想される。一方、今回公表のドットチャートでは 25 年までは中立金利を上回る水準となることが示唆され、24 年以降の政策金利水準にはバラつきがある。まずはインフレ抑制といったスタンスはメンバー間で一致しているが、その後の利下げのタイミングとそのペースについては議論の余地を残しているものと推測される。

|             | 本 邦                        | 海 外                                                                         |
|-------------|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 10 月 7 日(金) | ・8 月景気動向指数(速報)             | ・米 9 月雇用統計<br>・米 8 月棚卸在庫(確報)                                                |
| 10 日(月)     | —————                      | ・ユーロ圏 10 月センチックス投資家信頼感指数<br>・IMF 年次総会(16 日まで)                               |
| 11 日(火)     | ・8 月貿易収支<br>・9 月景気ウォッチャー調査 | ・米 9 月財政収支<br>・IMF 世界経済見通し公表                                                |
| 12 日(水)     | ・8 月コア機械受注                 | ・ユーロ圏 8 月鉱工業生産<br>・米 9 月生産者物価指数<br>・米 FOMC 議事要旨(9 月会合分)                     |
| 13 日(木)     | ・9 月企業物価指数                 | ・米 9 月消費者物価指数                                                               |
| 14 日(金)     | —————                      | ・ユーロ圏 8 月貿易収支<br>・米 9 月小売売上高<br>・米 9 月輸出/輸入物価指数<br>・米 10 月ミシガン大学消費者マインド(速報) |

## 【当面の主要行事日程(2022 年 10 月～)】

ECB 政策理事会(10 月 27 日、12 月 15 日、2 月 2 日)

日銀金融政策決定会合(10 月 27～28 日、12 月 19～20 日、1 月 17～18 日)

FOMC(11 月 1～2 日、12 月 13～14 日、1 月 31～2 月 1 日)

### 3. 国連の正論をどう受け止めるか～とはいえ利上げ停止は不可能～

#### 正論を発信した国連

今週 3 日、国連貿易開発会議（UNCTAD）が公表した年次報告書の内容は興味深いものであった。同報告書は「過度の金融引き締めが（一部の国に）停滞や経済不安の時期をもたらす恐れがある」、「中央銀行が金利上昇に依存し、景気後退を招くことなく物価を押し下げることができるという確信は軽率な賭け」など、現在世界で標準的な対応として継続されている中央銀行の姿勢を一刀両断している。グリンspan 事務局長（注：Rebeca Grynsman で元 FRB 議長の Alan Greenspan とは別人である）は会見において「インフレ低下に際し、一つの手段のみを使用することを望めば、世界全体を減速させ、景気後退に追い込む」、「軌道を修正するよう」といった金融引き締め一辺倒の現状に懸念を示している。

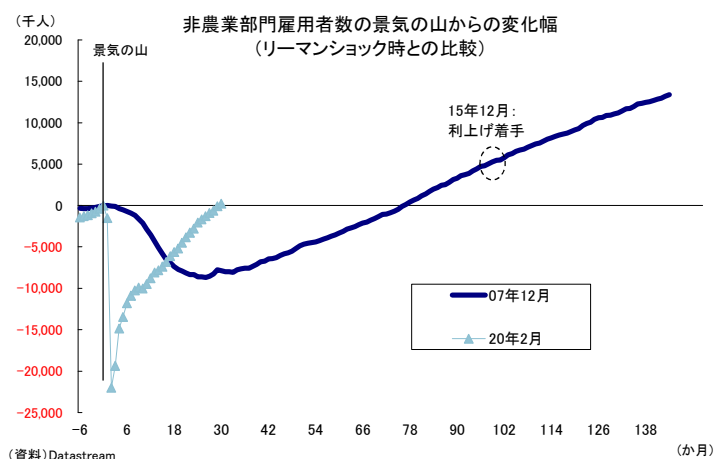
これに加え UNCTAD は企業の抱える超過利潤への課税、商品市況における投機行為の規制、サプライチェーンのボトルネック解消などの政策を通じてインフレ低下を実現できると指摘している。1 年前から指摘されていたように、現在のインフレの出発点が供給制約である。化石燃料に関しては脱炭素機運で生産能力が低下していたところ、パンデミックでサプライチェーンに混乱が生じ、今年 2 月以降はウクライナ危機でロシアからの資源供給に支障が生じるようになった。こうした供給制約の混乱は容易に解消できないという状況下、不足している供給に合わせて過剰な需要を削りに行くという縮小均衡の道を歩んでいるのが今の世界経済である。UNCTAD は供給能力の修復という根本的な手段はもちろん、企業部門から利潤を徴収したり、商品高を不必要に煽ったりする行為にもメスを入れるべきという立場を示した格好であり、誰しもが抱いていた正論が国連から世界の中央銀行に対して発信された構図だ。

実際、エネルギー企業から利潤を徴収し困窮している家計・企業部門に分配するという政策は既に欧州委員会が表明しており、EU では採用される公算にある。UNCTAD の提言は現実的な対応でもある。

#### 「失業者を増やす」のに必要な利上げ

しかし、UNCTAD の主張は正論だとしても、現状はもはや利上げ抜きで済むような状況でなくなっているのも事実だ。1 年前とは異なり、既に欧米では賃金インフレの兆候が指摘される。賃金の騰勢が続く限り、インフレは持続性を帯びるため、実体経済の過熱を金融引き締めで冷ます必要性はどうしても出てくる。よりかみ砕いて言えば、現状のインフレ懸念を沈静化するにあたっては雇用・賃金市場の悪化、端的には失業者の増加が必要であり、利上げはそのために必要な象徴的なツールと言える。9 月 FOMC で 75bp 利上げた後、当のパウエル FRB 議長も「私はそれ（失業の増加）は必要なことなのだと、より軟化した労働市場が必要なのだと思っている」と明言している。

例えば米国を例にとった場合、平均時給はようやくピークアウトの兆しが指摘されるものの、依然として前年比+5.0%を超える伸びが続いており、FRB がインフレ率の収束を図るという観点からは全く油断できない状態にある。直感的にも理解されるところだが、今回の景気悪化とそこからの回復は通常の軌道とは全く異なる。2020 年春にパンデ



ミックが発生し、米国は1か月で2000万人の雇用が失われた。リーマンショック後、最も雇用が失われていたのが景気後退から約2年後で870万人程度だったことを踏まえれば、パンデミックのもたらすショックが如何に凄まじかったのか分かる（前頁図）。しかし、主にロックダウンのような人為的な対応で急増した失業は、パンデミック終息と共に鋭角的に復元した。最新の8月雇用統計をもって、米国がパンデミックで失った雇用は完全に復元しており、質（賃金）はもとより、量（雇用者数）の面でも米国の労働市場はパンデミックを克服した格好になっている。本来、この時点での利上げは必要ないはずだが、あまりに労働需要の増加ペースが速いため労働供給が追いつかず、賃金の上昇を招いている状況にある。

労働供給が追いつかない背景には諸説があるが、パンデミックに伴って地方へ移住してしまった層が多いことやそもそも対面サービス型の仕事に就きたくないという層が増えたことなども指摘される。また、社会全体がインフレになっていることで、より高い賃金を求めて求職活動に時間をかける（もしくは直ぐに離職してしまう）ケースも聞かれる。いずれにせよ、現状を打開するにあたってはやはり労働需要を削るほかになく、その手段としての利上げが重宝されるのも致し方ない状況と言える。

### 中銀と政府の連携には期待薄

もちろん、UNCTAD も利上げを全否定しているわけではなく、「それだけに依存してインフレを抑制できると考えないで欲しい」というのが真意であろう。供給能力の拡充や価格統制を図りつつ、需要の縮小も図ることで極力早期に需給ギャップを均衡に誘導できるはずだという発想である。だが、今の欧米中銀の状況を見る限り、財政政策など政府部門の対応を加味しながら利上げ幅の匙加減を調整するという器用な真似ができる雰囲気はない。むしろ、英国が象徴的にそうであるように、「金融政策（利上げ）で経済を押し下げた分、財政政策で押し上げる」というポリシーミックスが定番化しており、どちらかと言えば政府はインフレ率を押し上げる役回りに立っている。

いずれにせよ、欧米中銀は1年前、眼前のインフレ率が加速し続ける中で一時的と言いつけ、失敗したという経緯がある。もう2度と同じ轍は踏まないように、インフレの芽が完全に断たれるまでは金融引き締めの手を緩めることは絶対にしないだろう。こうした状況では「無暗に引き締めをしないように」というUNCTADの思いは通じにくいかもしれない。

市場営業部  
チーフマーケット・エコノミスト  
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)  
[daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp](mailto:daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) [http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ\\_backnumber.html](http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html)

| 発行年月日      | 過去6か月のタイトル                                                           |
|------------|----------------------------------------------------------------------|
| 2022年10月6日 | 水際対策完全撤廃を前に論点整理                                                      |
| 2022年10月4日 | 散見され始めたドル暴落説を検証する                                                    |
| 2022年10月3日 | 「世界第2位の対外純債務国」の命運は政治次第                                               |
| 2022年9月30日 | 週末版                                                                  |
| 2022年9月27日 | 伊メローニ新政権、現実路線への修正は可能なのか？                                             |
| 2022年9月26日 | 英トラス新政権、「成長に賭ける」という危険な賭け                                             |
| 2022年9月22日 | 週末版(FOMCを終えて～「春になれば円安は止まる」の真実味～)                                     |
| 2022年9月20日 | EUは冬を乗り越えられるのか～結局、節電頼み～                                              |
| 2022年9月16日 | 週末版                                                                  |
| 2022年9月15日 | 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年8月分)<br>円安抑止としての日本版HIAの可能性                    |
| 2022年9月13日 | 鎖国政策終了とその後の課題                                                        |
| 2022年9月12日 | 動き出す家計部門の外貨運用～金融教育の先に～                                               |
| 2022年9月9日  | 週末版(ECB政策理事会を終えて～スタグフレーションとの闘いに挑むECB～)                               |
| 2022年9月7日  | 金利差が本当にテーマになるのはこれから                                                  |
| 2022年9月6日  | ノルドストリーム1の再開延期とユーロ安                                                  |
| 2022年9月5日  | 円安更新はどこまで続くのか～140円台突破を受けて～                                           |
| 2022年9月2日  | 週末版(ECB政策理事会プレビュー～50bpか75bpか～)                                       |
| 2022年8月29日 | ジャクソンホール経済シンポジウムを受けて                                                 |
| 2022年8月26日 | 週末版(劣化する欧州経済の現状～読めないエネルギー供給とドイツのリセッションリスク～)                          |
| 2022年8月24日 | 水際措置の緩和の評価～問題は上限ではない～                                                |
| 2022年8月23日 | パリティ割れと欧州のインフレ動向について                                                 |
| 2022年8月22日 | 顕著になる鎖国政策の副作用                                                        |
| 2022年8月19日 | 週末版                                                                  |
| 2022年8月18日 | 過去最大を更新し続ける貿易赤字                                                      |
| 2022年8月17日 | 生産者物価指数(PPI)と交易条件と円相場                                                |
| 2022年8月16日 | 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年7月分)<br>本邦4～6月期GDP～形ばかりの「コロナ前」回復～             |
| 2022年8月15日 | 独経済は不況の淵に～ライン川の水位低下～                                                 |
| 2022年8月12日 | 週末版                                                                  |
| 2022年8月10日 | 独ライン川の水位低下とユーロ安リスク                                                   |
| 2022年8月9日  | 2022年上半期の国際収支統計を受けて                                                  |
| 2022年8月8日  | ECBの再投資柔軟化はどこまで可能なのか？                                                |
| 2022年8月5日  | 週末版(ドル/円相場の近況をどう考えるか～歴史的な大相場は調整も非常に大きい～)                             |
| 2022年7月29日 | 週末版(米4～6月期GDPの読み方～リセッション判断は尚早～)                                      |
| 2022年7月27日 | IMF世界経済見通し(7月改定)を受けて                                                 |
| 2022年7月25日 | ドル/円相場の近況をどう評価するか？                                                   |
| 2022年7月22日 | 週末版(ECB政策理事会を終えて～前門のインフレ、後門のリセッション、TPIという二番煎じ～)                      |
| 2022年7月20日 | ECB は7月+50bp利上げに舵を切るのか                                               |
| 2022年7月19日 | パリティ割れの背景整理～歴史に学ぶ教訓～                                                 |
| 2022年7月15日 | 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年6月分)<br>週末版(ユーロ圏景気とユーロ相場の展望～ユーロ安でてこずるインフレ抑制～) |
| 2022年7月14日 | 米インフレ加速も住宅市況には変調の兆しも                                                 |
| 2022年7月12日 | やはり顔を出し始めた新規感染者主義                                                    |
| 2022年7月11日 | リフレ政策の今後～悲報との因果関係はなし～                                                |
| 2022年7月8日  | 週末版(世論に効き始めた物価上昇圧力～日銀がスケープゴートにされる可能性～)                               |
| 2022年7月7日  | ユーロ相場急落の背景～ECB/ハト派化より重要なこと～                                          |
| 2022年7月5日  | やはり反対していたドイツ～緊急政策理事会～                                                |
| 2022年7月4日  | 世界の外貨準備状況～22年3月末時点～                                                  |
| 2022年7月1日  | 週末版(2年9ぶりのAPP停止と域内債券グループ化構想～遂に始まる加盟国の階層化～)                           |
| 2022年6月28日 | 家計金融資産は動き出すか～22年3月末の状況～                                              |
| 2022年6月27日 | 世界は通貨高競争へ～逆・近隣窮乏化策の始まり～                                              |
| 2022年6月24日 | 週末版(ECB緊急政策理事会の読み方～落ち着かないラガルド流～)                                     |
| 2022年6月22日 | 「ドル高の裏返し」とは言い切れない円安の近況                                               |
| 2022年6月21日 | タカ・ハト両面を演じるECB～難しいナローパス～                                             |
| 2022年6月20日 | 疑似的な通貨危機の様相を呈する日銀運営                                                  |
| 2022年6月17日 | 週末版(ECB緊急政策理事会の読み方～落ち着かないラガルド流～)                                     |
| 2022年6月16日 | 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年5月分)<br>FOMCを終えて～円安地合いは固まるばかり～                |
| 2022年6月14日 | 悲惨指数を感じなかった日本人                                                       |
| 2022年6月13日 | 米5月CPIから予見される「円だけマイナス金利」の未来                                          |
| 2022年6月10日 | 週末版(ECB政策理事会を終えて～利上げ幅拡大も示唆～)                                         |
| 2022年6月9日  | 黒田発言をどう解釈するか～リフレの終幕と実質GDI～                                           |
| 2022年6月8日  | 金利が説明力を持ち始めているか～133円台を受けて～                                           |
| 2022年6月7日  | 要請経済の継続はトリプル安に～参院選と金融市場～                                             |
| 2022年6月6日  | ECB政策理事会プレビュー～サプライズがあるとすれば～                                          |
| 2022年6月3日  | 週末版(旅行収支と円相場の需給～制限ありきではインバウンドの影響なし～)                                 |
| 2022年6月2日  | 変容しつつあるユーロ圏物価情勢の現状と展望                                                |
| 2022年5月31日 | 31年連続、「世界最大の対外純資産国」の読み方                                              |
| 2022年5月27日 | 週末版(ドル/円相場と理論的な尺度について～もはや参考にしづらいPPPからの乖離～)                           |
| 2022年5月26日 | ブログで政策修正を図ったECBの真意～その②～                                              |
| 2022年5月25日 | ブログで政策修正を図ったECBの真意                                                   |
| 2022年5月20日 | 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年4月分)<br>週末版(円安相場は終わりなのか？～先行きは夏場以降の政治次第～)      |
| 2022年5月19日 | 本邦1～3月期GDPを受けて～「成長を諦めた国」～                                            |
| 2022年5月17日 | ECB、「行動の夏」が意味するところ                                                   |
| 2022年5月16日 | 円のREERは変動相場制以前の水準へ                                                   |
| 2022年5月13日 | 週末版                                                                  |
| 2022年5月12日 | 米4月CPIと今後の考え方について                                                    |
| 2022年5月11日 | インバウンド解禁と円安抑制の関係性                                                    |
| 2022年5月10日 | 「資産所得倍増プラン」の危うさ～為替・金利への影響～                                           |
| 2022年5月9日  | 「中銀の財務健全性」と「通貨の信認」について                                               |
| 2022年5月6日  | 週末版(FOMCを終えて～「50bps→25bps」のプレーキが重要～)                                 |
| 2022年5月2日  | 円安を止める3つの処方箋～日銀・原発・インバウンド～                                           |
| 2022年4月28日 | 週末版                                                                  |
| 2022年4月27日 | ECB、7月利上げ説は本当なのか？                                                    |
| 2022年4月25日 | 円安にまつわるQ&A:よくある疑問の論点整理                                               |
| 2022年4月22日 | 週末版                                                                  |
| 2022年4月21日 | 円の命運はまだ自ら変えられる～需給で円安の修正余地～                                           |